

1. 2022 年度報告

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

－2023 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施計画－

① 入試広報活動の徹底

- ・高等学院の優位性をアピールし、一貫教育に相応しい優秀な生徒を確保するよう努めた。
- ・今年度は、過去の新型コロナウイルス感染症対策の経験を活かし、学校説明会の実施においては対面開催だけでなくオンデマンド配信し、ハイブリッドな形態で実施した。

(実施日：高校：9月18日、19日、10月30日、中学部：6月19日、9月18日、10月30日)

(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

－グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画－

① ICT を活用した新しい学びの創造

ICT を活用した教育のデジタル化をさらに推進した。特に LMS (Moodle) を活用した授業コンテンツの充実や中
学部生のパーソナルコンピュータ必携化などに取り組んだ。また高校では今年度からの新学習指導要領の実施を受
けて、高校生全員に統計やプログラミングを必修化しデータサイエンスなどのデジタル時代にふさわしい学びの創造を
目指した。

② グローバルな視点をもった学びの充実

国語、数学を基礎に語学教育(英語、第二外国語)を充実させ、社会科学系、自然科学系の授業として総合的
な探究の時間等においてグローバルな課題をテーマとした探究的な学習を一層推進した。また新型コロナウイルス感
染症の影響で中断していた短期・長期留学や各種の国際交流も段階的に再開した。

③ キャリアデザイン教育の推進 – 学部アドミッションポリシーにかなう中高大一貫教育の推進 –

高等学院の優位性を生かしたキャリアデザイン教育に取り組んだ。学部正規授業の履修、学部モデル授業さらには
学院 OB などによる学部説明会などを実施し、学院生が卒業後も各学部・各分野で活躍できるよう中高大一貫教
育を見据えたキャリアデザイン教育を進めた。

「将来の学部・学科進学を見据えた基礎学力の養成」

高大接続テスト(国語、数学、英語(GTEC))：11月)

「進学後の可能性を広げる取り組み」

キャリアデザイン教育の一貫として、次の行事を実施した。

- ・進路講演会(社会人 OB 約 20 名、3 年生対象：5 月)
- ・モデル講義(各学部オンライン実施：5 月)
- ・日本医科大学へのキャンパスツアー(希望者：4 月)

④ プロジェクト活動の推進(本庄高等学院との協働)

生徒の主体的な活動としてのプロジェクト活動を積極的に実施し、特に本庄高等学院との連携を強化した。

例：環境プロジェクト、教育プロジェクト、WASS(附属連携プロジェクト)など。

⑤ TOEFL-TOEIC の実施(高校生対象)

下記の要領で実施した。

1 年生：2022 年 1 月、2 年生：2022 年 1 月、3 年生：2021 年 9 月、2022 年 2 月

(3) 研究関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連)

－ 研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み計画 －

① 研究年誌発行 (67 号)

② 外部研究資金への応募および獲得の推進

高等学院教員の文部科学省科学研究費、民間研究資金、学内研究資金などの獲得を促進に努めた。

科研費 (2 件)、学内特定課題研究助成費 (20 件)。

③ 教員研修 (ファカルティ・ディベロップメント: FD) の充実

附属・系属校教員のための教員向上プログラム参加 (8 月、2 名)

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 8 関連)

－ 派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等 －

新型コロナウイルス感染症で中断していた国際交流を段階的に再開した。

① 学術交流協定締結校・機関 (現在)

国立政治大学附属高級中学校 (台湾)、日仏高等学校ネットワーク・コリブリ (フランス)、孔子課堂 (中国)、ゲーテ・インスティテュート (ドイツ)、ハナ高等学校 (韓国)、サントペテルブルク国立学校 583 (ロシア)、ザビエルカレッジ (オーストラリア・メルボルン)、セントポールカレッジ (オーストラリア・シドニー)、北京大学附属高級中学 (中国)、ラインガウギムナジウム (ドイツ)、ロクア高等学校 (フランス・パリ)、エデュケーション・ニュージーランド

② 派遣留学 (長期)

留学一種: 6 名 (USA: 4 名、ドイツ: 1 名、カナダ: 1 名)

留学二種 (留学期間を含んで 3 年間で卒業できる留学制度): 5 名 (USA: 5 名)

③ 派遣留学 (短期): 17 名 (ニュージーランド: 14 名、コリブリ: 3 名)

④ 受入留学: 3 名 (ドイツ、スペイン、ギリシア: 各 1 名)

⑤ 学術協定締結校・機関等による交流 (含む: オンライン)

新型コロナウイルス感染症の影響により中断していた国際交流を段階的に再開した。また、大学国際部とエデュケーション・ニュージーランドの協力により、国際交流校を新規に開拓した。

・PASCH オンラインイベント「ビデオプロジェクト」: 7 月 (参加者: のべ 32 名)

・国際ドイツ語オリンピック (ハンブルク) 日本代表高校生: 7 月 25 日～8 月 5 日 (参加者 1 名)

・青少年ドイツ語研修プログラム「Jugendkurs」: 7 月 30 日から 8 月 21 日 (約 3 週間) (参加者: 2 名)

・ドイツ企業訪問 (BOSCH、Zeiss、BMW、Merck、SAP、ドイツ大使館): 10 月、11 月 (参加者 31 名)

・日仏高等学校ネットワーク・コリブリ短期フランス留学: 3 月 (参加者: 3 名)

・東京国際フランス学園の訪問: 3 月 (参加者: 12 名)

・北京大学附属中学とのオンライン交流: 11 月 (参加者: 22 名)

・中国人留学生との会話実践授業: 11 月 (参加者: 中国人留学生: 6 名、中国語入門履修者: 19 名)

・都立北園高校と「合同システム (ロシア武術) 体験講習会」 (参加者: 15 名)

・ハナ高校国際シンポジウム (韓国) とのオンラインシンポジウム: 7 月 (参加者: 4 名)

・ハナ高校短期交換留学: 3 月 (参加者: 1 名)

⑥ その他: 国際交流プログラムへの参加

・TYCA (東芝国際交流財団 ASEAN 交流プログラム): 11 月～3 月 (参加者: 2 名)

・スタンフォード e-Japan プログラム表彰式: 8 月 (参加者: 6 名)

2. 2023 年度計画

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

－2024 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施計画－

① 世界に羽ばたく人間を創る早稲田の一貫教育の推進 (首都圏の優秀な生徒の確保)

卒業生のほぼ全員が早稲田大学へと進学する学院生に対し、三つの教旨を胸に「早稲田スピリット」をもって、中学生は 10 年間、高校生は 7 年間の「早稲田の一貫教育」のなかで自由・平等そして平和な社会に貢献する「すこやかで、しなやかでそしてたくましい」人材を育成する。

② 入試広報活動の徹底

- ・高等学院の優位性をアピールし、一貫教育に相応しい優秀な生徒を確保する。
- ・新型コロナウイルス感染症での経験を活かし、学校説明会の実施においては対面開催だけでなく、オンデマンド配信などハイブリッドな形態で柔軟に実施する。

③ 「思考力・判断力・表現力」を評価する入試の実施

書く力、読む力である基礎力にあわせて思考力・判断力・表現力を問う問題の出題に心がける。

(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

－グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画－

ICT (情報通信技術) を活用する教養教育の実現

次の 2 つを柱とした教養教育を施すことで、専門教育を見据えた早稲田の一貫教育に相応しい優れた生徒を育成する。

- ・基礎基本教育の徹底 (3 R's^{*1}) …すべての教科での読む力、書く力、数学力
- ・探究的な学びの推進 (4 C's^{*2}) …批判的思考力、コミュニケーション能力、協働力、創造的問題解決能力

*1) 3 R's : Writing, Reading, Arithmetic (Discipline-Based Learning).

*2) 4 C's : Critical thinking, Communication, Collaboration, Creative problem-solving, (Interdisciplinary Learning).

具体的に今年度は、次の 3 つを重点化する。

① ICT を活用した新しい学びの創造

ICT を活用した教育のデジタル化をさらに推進し、柔軟で持続可能な教育方法をあらゆる学習機会において確立し、基礎的・応用的な学力を培うと共にその学びの質を保証し、新しい時代にふさわしい学びを創造する。

- ・中学部：1 人 1 台のパーソナルコンピュータ必携化を目指し ICT 教育を充実する。
- ・高等学校：新学習指導要領実施に際し、すべての教科において探究的な学びの実現に向け ICT を活用する。また、全員に対して統計やプログラミングを必修化し、データサイエンス教育を展開する。

② 文理を融合しグローバルな視点をもった多様な学びの空間の確立

教科において国語、数学を基礎に語学教育(英語、第二外国語)を充実させ、社会科学系、自然科学系の授業そして総合的な探究の時間等において SDGs など文理を融合したグローバルな課題に取り組む探究的な学習を一層推進する。また新型コロナウイルス下で中断・縮小していたさまざまな行事や今年度新たに開始するニュージーランドへの短期留学を始めとする国際交流を展開し、部活動そしてプロジェクト活動等、教科外活動を活性化する。そしてこれらの取り組みを通して、グローバルな視点を持った多様な学びの空間を確立する。

③ キャリアデザイン教育の推進

－学部アドミッションポリシーにかなう中高大一貫教育の推進(大学入学者選抜を経ない学部進学)－

高等学院の優位性を生かしたキャリアデザイン教育に取り組む。今年度からは 2 年生を対象に、学部モデル授業の

実施、学院 OB などによる学部説明会などを実施し、各学部の協力を得て学部説明会などの実施も計画している。学院生が進学後も各学部・各分野で活躍できるよう中高大一貫教育を見据えたキャリアデザイン教育を推進する。

「将来の学部・学科進学を見据えた基礎学力の養成」

高大接続テスト（早稲田大学進学後に学術・研究の途を進むにあたって求められる基本的な知識・技能がどの程度身についているか確認するテスト）の改善を検討し実施する。

「進学後の可能性を広げる取り組み」

キャリアデザイン教育に積極的に取り組む。そして学院生が各学部に進学し勉学・研究、スポーツの各分野で活躍できるよう中高大一貫教育を見据えたキャリアデザイン教育を推進する。

- ・OB 進路講演会（社会人 OB 約 20 名、2 年生・3 年生対象）5 月実施
- ・学部連携・・・モデル講義（各学部）5 月実施、進路説明会（理工 3 学部・その他学部）実施日未定
- ・日本医科大学への医学部進学指導の充実とキャンパスツアーへの参加

④ 附属連携プロジェクト（WASS）活動の推進（本庄高等学院との協働）

生徒の主体的な活動としてのプロジェクト活動を活性化し、本庄高等学院や系属校との連携を企画・実施する。

例：環境プロジェクト、附属連携プロジェクト、教育プロジェクトなど。

（3）研究関連（Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連）

－ 研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み計画 －

① 研究年誌発行（68号）と充実

② 外部研究資金への応募および獲得の推進

高等学院教員の文部科学省科学研究費、民間研究資金、学内研究資金などの応募を促進する。

③ 教員研修（ファカルティ・ディベロップメント：FD）の充実

ネットワークを活用したオンデマンド授業環境の整備、教材開発、授業形態の研究を充実させる。また、生徒指導（特に、生徒の発達等に関するカウンセリングなど）に関する研究・研修も充実させる。

（4）国際関連（Waseda Vision 150 核心戦略 8 関連）

－ 派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等 －

新型コロナウイルス感染症の影響により中断した国際交流を再開する。

① 学術交流協定締結校・機関の新規開拓

国立政治大学附属高級中学校（台湾）、日仏高等学校ネットワークコリブリ（フランス）、孔子課堂（中国）、ゲーテ・インスティテュート（ドイツ）、ハナ高等学校（韓国）、サントペテルブルク国立学校 583（ロシア）、ザビエルカレッジ（オーストラリア・メルボルン）、セントポールカレッジ（オーストラリア・シドニー）、北京大学附属高級中学（中国）、ラインガウギムナジウム（ドイツ）、ロクロー高等学校（フランス・パリ）、エデュケーション・ニュージーランド

② 派遣留学（長期）

留学一種ならびに留学二種（留学期間を含んで 3 年間で卒業できる留学制度）を推進する。

③ 派遣留学（短期）

中学部：セントポールカレッジ、高校：ニュージーランド短期留学、カナダ英語研修（夏休み）、ハナ高等学校シンポジウムなどを実施する。

④ 受入留学

長期（AFS、YFU など）、短期（コリブリ、ハナ、北京、サントペテルブルグなど）を積極的に受け入る。

⑤ 学術協定締結校・機関等による交流の推進（2023年予定しているもの）

- ・ゲーテ・インスティテュート（PASCH 活動）
- ・ハナ高等学校（韓国）
- ・日露青年交流センター
- ・日仏高等学校ネットワーク・コリブリ
- ・エデュケーション・ニュージーランド

⑥ その他（国際交流プログラムへの参加など）

- ・スタンフォード e-ジャパンプログラム（Stanford e-Japan Program）への参加
- ・ICC のアウトリーチプログラムへの参加（中学部）

（5）その他

－（1）～（4）に該当しない、学術院独自の戦略・プロジェクト等－

① 上石神井キャンパス整備の推進（第三期工事）

教員室、理科実験教室、家庭科室、食堂、ラーニングコモンズなど高等学院の教育の特色を実現するのに相応しい校舎建設（第三期工事）に取り掛かり、安心・安全なキャンパスづくりを目指す。

② あらゆる災害から命を守る安心・安全なキャンパスづくり

新型コロナウイルスに対応する感染拡大防止、首都圏大規模地震対策などを推進し、安心・安全なキャンパスづくりに心がける。

③ カーボンニュートラルなど地球環境を意識したキャンパスづくり

SDGs などの目標（7、11、13 など）に対し、教職員・生徒全員がカーボンニュートラルなど地球環境を意識して行動する。

④ 新制高等学院創立 75 周年事業の企画・準備

1949 年に新制高等学校として再出発した高等学院は 2024 年度に 75 周年を迎える。そのため記念事業実施のため今年度から委員会を設置し企画・準備を開始する。